

ワールド ウッド トренд

No. 13, 15 OCT 2014



1. 台湾 MIT（メイドインタイワン）スマイルロゴの推進状況

台湾は、輸出主導型のアイランド型経済体であり、対外貿易の発展は経済成長の鍵を握るため、「世界との繋がりを強化し、グローバルな経済活動を展開する」ことを経済貿易政策の主軸として位置付けている。

近年、台湾は中国大陆と良好な協力関係を築くと同時に、各国とも経済連携協定を締結して、世界経済への融合と対外貿易の拡大を目指している。しかし、市場開放と関税引き下げに伴って、競争力が低く、貿易自由化に影響されやすい国内の内需型産業は大きな衝撃を受けることとなる。

こうした課題に対処するため、台湾行政院は2010年に「貿易自由化に対応する産業調整支援プラン」を制定し、経営革新など競争力強化および安定雇用確保に向けた取組みを積極的に支援することとしている。この政策の制定を背景に、工業局は国内の伝統的な、内需型産業の製品品質を高め、「安心・安全・信頼できる」台湾製品のイメージを作り出そうと、2010年から「台湾製 MIT スマイルロゴおよび品質認証制度」を推進し、MIT スマイルロゴ取得製品の国内外への販路拡大、産業競争力の強化に積極的に取り組んでいる。

上記の品質認証の対象品目は現在、3つの類型に区分される。第一類は積極的に支援する重点産業の製品で、17品目が含まれる。第二類は食品 GMP、化粧品 GMP や CNS マークなどの認証制度の適用対象産業の製品である。第三類は IT 製品、おもちゃ、オーディオ製品、照明器具、サングラス等を含む一般製品 402 品目である。

木竹製品は、衣服、下着、セーター、水着、タオル、寝具、くつ下、くつ、かばん・スーツケース、家電製品、石材、陶磁器、農薬、環境薬品、動物用医

薬品、帽子、マフラー、手袋、傘等と同様に、第一類に区分され、次の製品を指している。

- 製材品、壁材、木製モルディング類。
- 保存処理木竹材（防虫・防蟻、防腐処理木竹材、難燃処理木竹材）
- 熱処理材
- 木製防火ドア
- 木製ドア、木製サッシ、木竹製カーテン、木竹製ブラインド、フェンス、木製容器
- 合板：普通合板、特殊合板、防虫・防蟻、防腐または難燃処理合板。
- LVL
- 構造用、造作用集成材
- フローリング材
- パーティクルボード
- 繊維板
- その他木竹製品

上記認証の申請は、随時受け付けている。認証の流れは、以下のとおり。

1. 認証申込
2. 審査料の支払（初期段階において、第一類、第二類製品は審査料の免除が適用される）
3. 書類審査
4. 実地審査
5. 製品品質検査
6. 製品表示検査
7. 手数料の支払（初期段階において、第一類、第二類製品は手数料の免除が適用される）
8. 登録、番号取得。
9. ロゴ使用契約のサイン
10. ロゴ認証書の交付
11. 支給ロゴの申請もしくは認証取得者によるロゴの印刷
12. 認証ロゴの使用状況の追跡調査

MIT スマイル製品の認証制度は、業者が自発的に申請を行い、工業局が指定した第三者認証専門中立機関が第三者認定を実施する。認定基準として以下の項目が定められている。

- ① 台湾製原産地認定（經濟部国際貿易局の原産地認定基準を採用）

② 品質認証（工場の品質管理及び製品の品質検査を含む）

2014年8月までの集計によれば、2011年に木竹製品のMITスマイルロゴが正式に導入されて以来、151社から491製品、3,290件の申請があった。うち、1,827件の申請が合格し、MITスマイルロゴを取得している。

業者らの話によると、木竹類製品の取引形態は主に、B TO C（企業対消費者間取引）ではなく、B TO B（企業間取引）であるため、木竹製品MITスマイルロゴの開始も、良質で安価な台湾製品を直接消費者にアピールすることができず、MITスマイルロゴを取得した食品、繊維品、家電製品等の製品が順調に売上げを伸ばしているのに対し、MITスマイルロゴ導入の木竹製品に対する市場効果は予想を下回っており、業界は政府のより一層の支援強化を希望している。

WORLD WOOD TREND

2. 台湾の今年8月木材輸入量

台湾の税関統計に基づき、今年8月の台湾の原木輸入量は、約38,300m³で先月より11,700m³減少したが、台湾の原木供給がほとんど輸入に依存していることに変わりがない。原木輸入の減少原因については、マレーシアの天候不順により、同国からの輸入量が先月より11,500m³減少したことが主な原因として挙げられる。なお、日本産スギの8月の輸入量は約5,000m³となり、今年2番目の低水準となったが（1月の輸入量は4,873m³）、これは需要側の要因によるものか、供給側の要因によるものか、しばらく観察を続ける必要がある。

台湾の製材品の供給の大半は輸入に依存している。台湾の対外貿易の好調を受け、各種梱包材、パレットの需要は依然として旺盛であることに加えて、島内の建設需要も堅調さを維持しており、年初から現在までの製材品の需要量は、毎月10～11万m³前後で推移している。このため、8月の製材品輸入量は約114,500m³にのぼり、先月に比べ4,200m³増加した。

合板市場の供給源には輸入と台湾産があり、その割合をみると、輸入が約80～85%、台湾産が約15～20%となっている。8月の輸入量は約54,000m³で、先月に比べ5,300m³減少した。輸入合板の用途をみると、コンクリート型板用合板が約10,000m³、構造用LVL角材が5,000m³を占めており、装飾材として使用されている合板は約40,000m³に過ぎない。

台湾の内装材市場において、合板がブロックボード、パーティクルボードや繊維板にとって代わってきている傾向が顕著にみられる。

台湾のブロックボードの供給の大半は島内産のものに依存しており、輸入ブロックボードの割合はわずか3～4%である。一方、ブロックボード製造用のランバーコアの8月輸入量は約30,000m³にのぼる。

近年、単板の調達先の多様化は顕著にみられる。その主な原因として、マレーシア産原木の価格の高騰により供給不足となり、それを憂慮する島内の合板、ブロックボード製造業者が代替調達先として、中国大陸やベトナムなどの地域へのシフトしていることなどが挙げられる。8月の輸入量は約22,200m³となり、供給不足は若干解消されたものの、今年1～8月の合計輸入量は前年同期に比べ17%減少している。合板、ブロックボードの製造業者は、単板などの原材料の価格高騰と調達難に悩まされている。

台湾のパーティクルボードの消費はほぼ全量を輸入に依存している。8月の輸入量は約30,400m³にのぼり、3ヶ月連続で3万m³を上回り、単月でも今年4回目の3万m³超えを記録した。業者へのヒアリングによると、島内、海外からの受注がそれぞれ増えているという。同時に加工後のパーティクルボードが加工合板から装飾材の市場シェアを奪っていることも、需要が高水準で推移し続けていることの原因の一つである。

台湾の繊維板の消費は全量を海外からの輸入に依存している。8月の輸入量は約12,400m³、今年1～8月の輸入量は117,000m³にのぼり、前年同期に比べ16.6%増加している。今年の繊維板輸入量は16～17万m³前後と推定される。

2014年8月における台湾の主要木材製品輸入実績 (m³)

品目	2014年8月	2014年1-8月	2013年1-8月	2013年同期比 (%)
原木	38,314	460,226	462,381	-0.4
製材品	114,536	870,119	807,189	7.8
合板	54,058	472,922	451,468	4.8
ブロックボード	696	8,015	7,383	8.6
単板	22,234	146,399	176,566	-17.1
ランバーコア	30,065	256,362	245,348	4.5
パーティクルボード	30,463	226,738	172,560	31.4
繊維板	12,418	117,059	100,360	16.6

(本文は現地レポートを基に編集したもの)